

バックアップ回線により気象レーダー観測の継続性確保 (沖縄県南城市)

事業者：気象庁

災害時に効果を発揮した3か年緊急対策の事例



バックアップ回線 (LTE回線)用アンテナ

沖縄レーダー (当施設を含む全国計20の気象レーダーで国土のほぼ全域の降水等を観測している。)



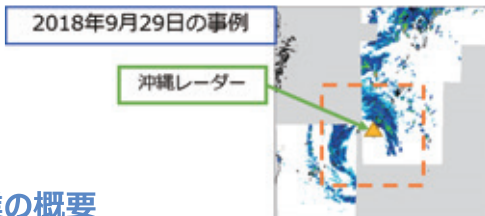
対策名：No.95 気象・地震等観測施設の継続性確保に関する緊急対策

事業名：気象レーダーの非常用バックアップ回線の整備

- ポイント**
- 3か年緊急対策として、全国の気象レーダーに非常用バックアップ回線を整備
 - 通信回線異常時にレーダーのデータを速やかに復旧

地域の概要・課題

平成30年台風第24号では、沖縄レーダーのデータが34時間途絶し、沖縄本島地方・大東島地方の一部の雨を観測できませんでした。



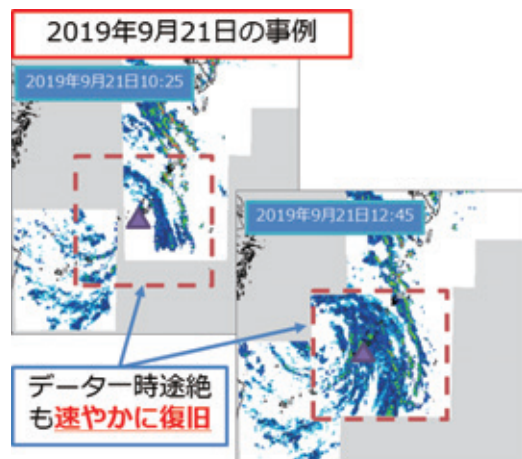
事業の概要

3か年緊急対策として、沖縄レーダー他、全国の気象レーダーに非常用バックアップ回線を整備しました。



効果

- 令和元年台風第17号襲来中に通信回線異常が発生しデータが途絶しました。
- この台風の襲来までに、3か年緊急対策に基づき、レーダーに非常用のバックアップ回線を整備していたことから、速やかに復旧しました。
- 防災気象情報への影響を最小限に抑制しました。



I-1 大規模な浸水、土砂災害、地震・津波等による被害の防止・最小化

I-2 救助・救急、医療活動などの災害対応力の確保

I-3 避難行動に必要な情報等の確保